

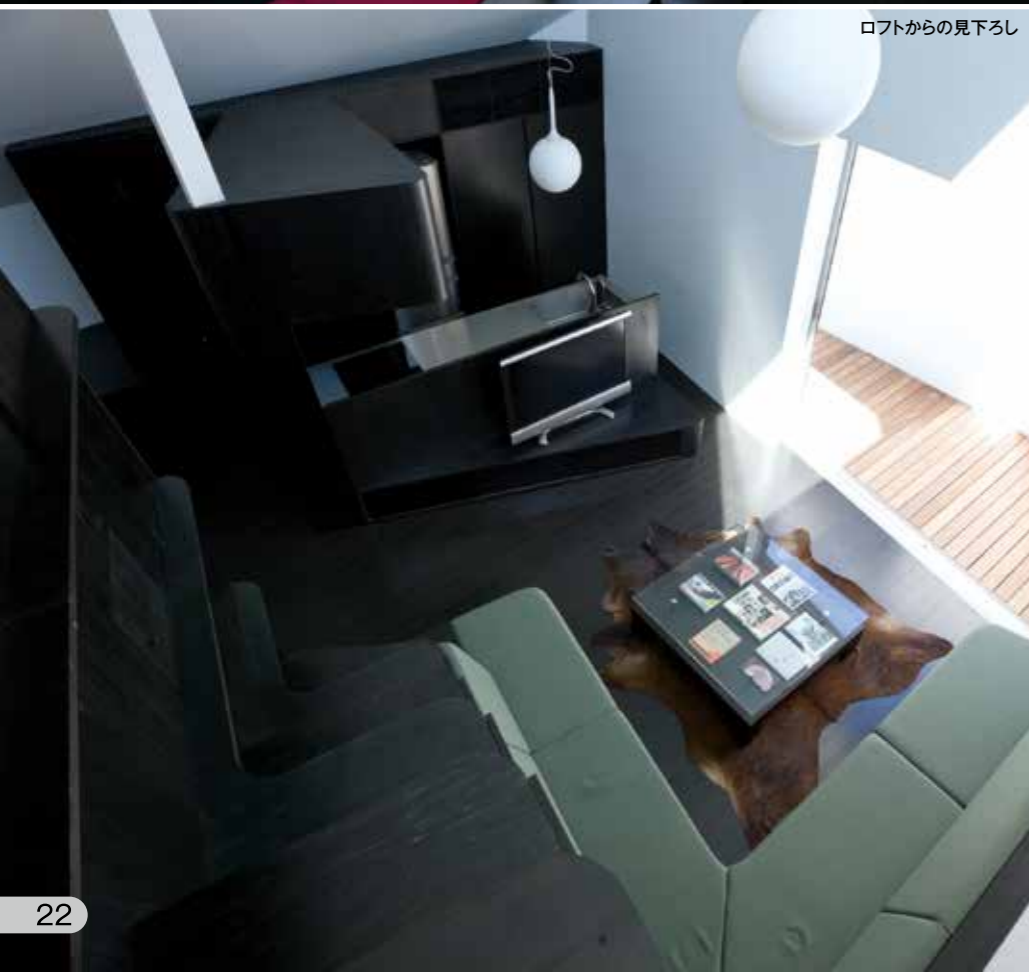
厚物合板による片流れ天井に目を向ける

所在地: 東京都世田谷区  
 設計・総合: GENETO建築設計事務所  
 構造: 中田捷夫研究所  
 施工: アイガー産業/pivoto  
 構造/規模: 木造軸組構法/2階建  
 面積: (敷地) 140.56㎡  
 (1階) 45.54㎡  
 (2階) 56.88㎡  
 (延床) 102.42㎡  
 竣工: 2008年12月

屋根の構成: ガルバリウム鋼板瓦棒葺き  
 構造用合板t24  
 天井の構成: PBt9.5の上OP塗装



ダイニング越しに左手にキッチン 正面にリビング 右手に子供部屋の納まる大きな家具を見る  
 子供部屋のフレームは格子状に組まれ ロフトの床を支えている



ロフトからの見下ろし

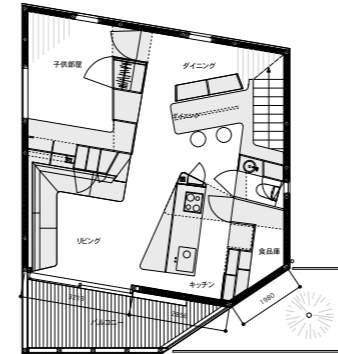


ロフト

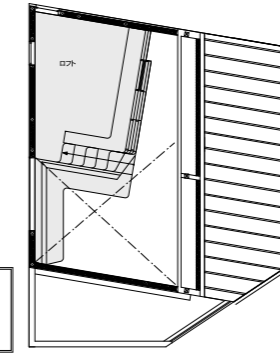


建物外観

平面図・2階(1/200)



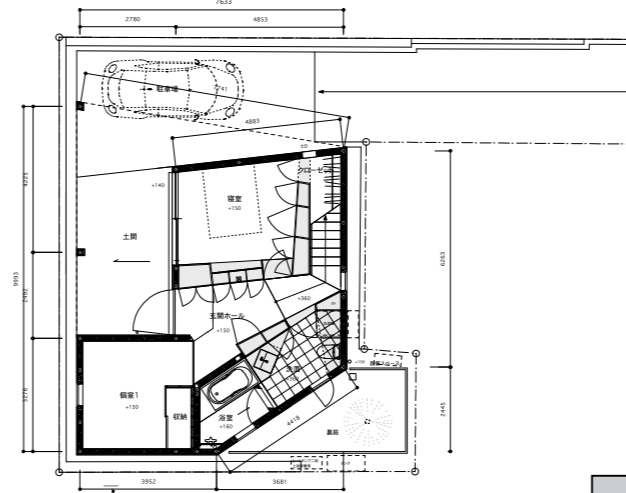
平面図・ロフト(1/200)



住宅について

DG-HOUSEの天井は、片流れ屋根をなぞる形で構成することで巨大な広がりを持つ。この天井について我々が思い描いたのは“白砂の庭”であった。白砂の庭は、四季や時間の経過を映し出し、音や風を感じさせるスクリーンのような働きを持つ。その働きを天井に込めようとした。この天井では、開口部から一日中光がもたらされ、太陽の角度に応じて独特の表情を見せてくれる。また、住人の声や生活の音が、天井で跳ね返され心地よく豊かな音として空間にこだまするなど、日々の生活を映し出してくれる。この天井と白砂の庭に共通する、人が立ち入ることの出来ない場所の存在が、空間に心を寄り添わせてくれる。

平面図・1階(1/200)



屋根と合板について

合板により、強固な面を作る事で豊かな広がりを獲得できた。屋根面と床面、そして壁面によって巨大なボリュームを成立させている。内部には、柱が一本と南面の壁を支える頬杖だけが構造体として現れる。そこに合板で作った家具を設えながら、内部空間を構成する。内部空間を構成する家具のスケールは大きく、構造体を補強する役目も果たしている。また、開口部は外部と内部の関係から得られる位置を優先したため、間柱を設け合板で挟み込むことで、構造的な制約を受けず決定することができた。

断面詳細図(1/200)

